

# 小田原競輪の今後に向けた検討会議 報告書

平成31年2月

# 目 次

1	検討の経緯	1
2	小田原競輪の現状	2
2-1	これまでの経営状況	2
2-2	今後の収支見込み	5
2-3	施設の状況	7
3	改善策	8
3-1	これまで取り組んできた改善策	8
3-2	未着手の経営改善策	9
4	小田原競輪の今後の方向性	11

# 1 検討の経緯

小田原競輪は、戦後の復興事業として始まり、高度経済成長や石油ショック、バブル経済の崩壊などの社会経済情勢の波にもまれながら、これまでの長い歴史の中で、小田原という地域に定着した大衆娯楽であるとともに、その収益から市の一般会計に繰出金を繰り出すことで、市の財政に大きく貢献してきた。

しかし、趣味やレジャーの多様化、ファン層の高齢化などの影響により来場者が減少し、次第に競輪を取り巻く環境が厳しくなり、それと比例して車券の売上も減少するなど、その経営状況が下降線を辿っていたことから、市では、競輪事業の将来のあり方等について調査研究を行い、その方向性を示すことを目的に、平成19年8月に小田原市競輪事業検討委員会を設置し、平成20年2月に報告書が提出された。

その中で、小田原競輪の将来のあり方について、「小田原競輪は、基本的には存続させるが、赤字、もしくは赤字が予測される状況となった場合には廃止を検討する。」と結論付けられたことから、市は、この結論を尊重して事業を継続してきたが、平成24年度、平成27年度及び平成29年度は一般会計への繰出しを継続したものの、実質的な単年度収支は赤字となる、大変厳しい状況となっている。

今後も、単年度収支の赤字が予測されるとともに、施設全体の老朽化が進んでいる状況等を踏まえ、市では、平成30年11月に、庁内の関係課で構成する「小田原競輪の今後に向けた検討会議」を設置して、「小田原競輪の今後の方向性」について、廃止ありきでは無く存続も含め様々な角度から検討を進めることとした。

この報告書は、その検討結果をとりまとめたものである。

## 2 小田原競輪の現状

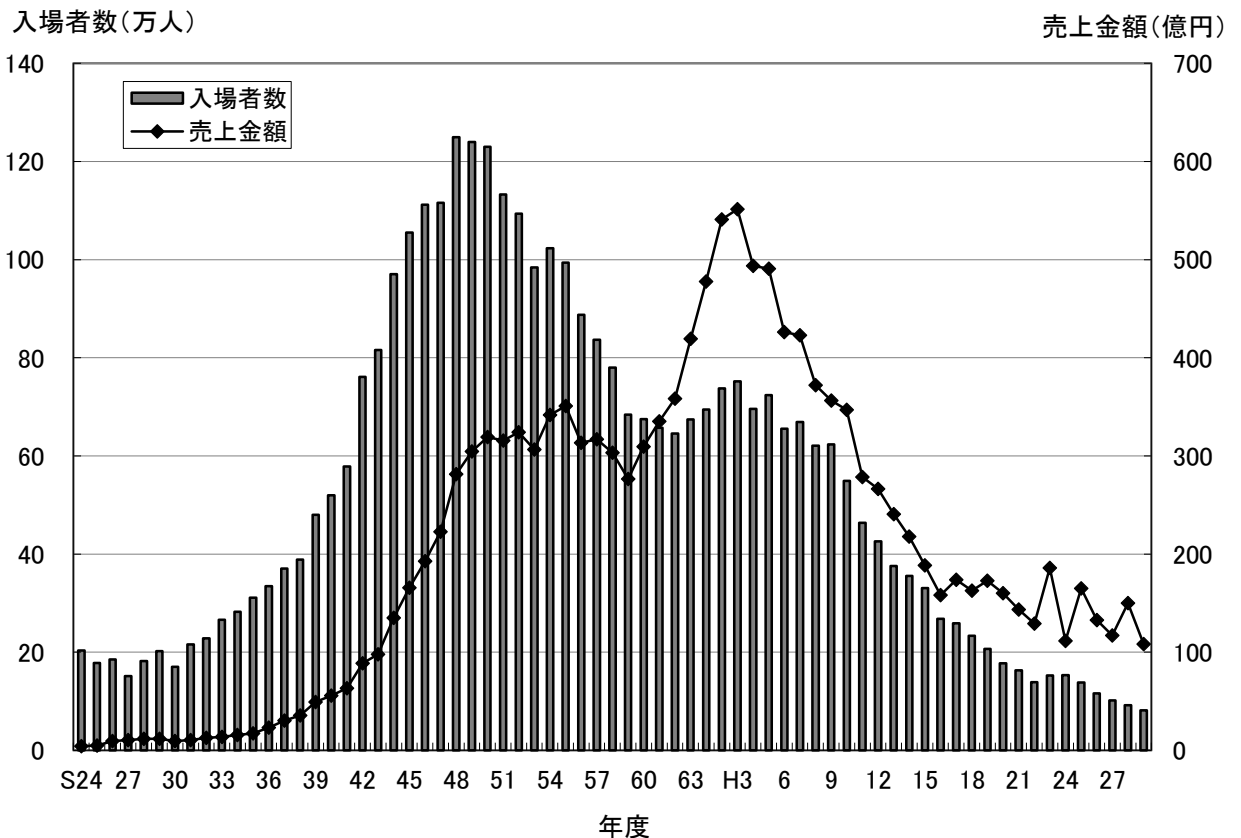
### 2-1 これまでの経営状況

小田原競輪の車券の売上は、平成3年度の約551億円をピークに、平成29年度には約108億円まで減少し、入場者数も、昭和48年度の約125万人をピークに、平成29年度は約8万人まで減少している。

<小田原競輪場の入場者数及び売上金額の推移>

年度	入場人数 (単位:人)	売上金額 (単位:千円)	年度	入場人数 (単位:人)	売上金額 (単位:千円)	年度	入場人数 (単位:人)	売上金額 (単位:千円)
S24	203,370	421,679	47	1,115,515	22,278,806	7	668,910	42,297,739
25	177,848	491,903	48	1,249,198	28,126,370	8	620,870	37,188,729
26	185,096	954,386	49	1,239,809	30,456,049	9	623,650	35,641,715
27	151,473	1,038,121	50	1,230,046	31,931,527	10	549,185	34,708,359
28	182,368	1,183,361	51	1,132,757	31,548,931	11	463,642	27,841,825
29	202,589	1,191,228	52	1,093,472	32,412,146	12	426,131	26,626,003
30	170,359	940,212	53	984,200	30,653,722	13	375,843	24,081,119
31	216,186	1,046,377	54	1,023,147	34,159,181	14	355,350	21,772,997
32	228,585	1,269,386	55	993,938	35,080,041	15	330,822	18,845,103
33	266,337	1,371,143	56	887,821	31,343,904	16	268,307	15,817,024
34	282,524	1,567,933	57	836,661	31,703,168	17	258,770	17,386,899
35	311,195	1,722,552	58	780,222	30,338,028	18	233,504	16,291,421
36	334,707	2,320,209	59	684,221	27,644,480	19	206,640	17,290,739
37	370,255	3,042,002	60	675,165	30,932,522	20	177,178	16,006,375
38	388,467	3,568,860	61	657,335	33,509,017	21	162,927	14,337,396
39	479,733	4,921,928	62	645,351	35,837,572	22	138,763	12,928,357
40	519,894	5,590,947	63	674,019	41,936,187	23	152,772	18,587,436
41	578,759	6,345,698	H1	694,498	47,777,027	24	153,300	11,172,048
42	761,008	8,883,581	2	737,454	54,093,703	25	138,352	16,499,376
43	815,797	9,779,957	3	752,110	55,126,705	26	116,526	13,280,845
44	970,129	13,492,990	4	695,738	49,371,661	27	102,063	11,717,579
45	1,055,280	16,554,365	5	724,041	49,083,802	28	92,030	14,993,262
46	1,111,879	19,258,927	6	655,179	42,616,799	29	81,763	10,845,409
						累計	36,823,033	1,421,076,848

※神奈川県競輪組合営小田原競輪を含む。



また、歳入・歳出から前年度繰越金と一般会計繰出金を除いた実質単年度収支で見ると、例年の開催に加えてGグレードの国際トラック支援競輪を開催した平成28年度が黒字となったものの、平成27年度及び平成29年度は、記念競輪に準じる売上げが期待されるジャパンカップを開催したにも関わらず、いずれも赤字となっており近年の収支の悪化が顕著となっている。

<収支の状況>

(単位：千円)

年度	歳入 ①	歳出 ②	前年度繰越金 ③	一般会計繰出金 ④	実質単年度収支 (①-③)-(②-④)
20	16,240,555	15,742,349	255,137	300,000	543,069
21	15,196,144	14,909,425	498,206	300,000	88,513
22	12,845,344	12,641,699	286,719	100,000	16,926
23	13,509,869	13,157,840	203,645	100,000	248,384
24	11,169,644	10,981,635	352,029	100,000	△ 64,020
25	11,996,348	11,654,030	188,009	100,000	254,309
26	13,761,707	13,146,469	342,318	100,000	372,920
27	12,602,652	12,231,830	615,238	100,000	△ 144,416
28	15,659,224	15,339,171	370,822	100,000	49,231
29	11,648,834	11,489,906	320,053	80,000	△ 81,125

※平成28年度は国際トラック支援競輪開催分、平成27・29年度はジャパンカップ開催分を含む。

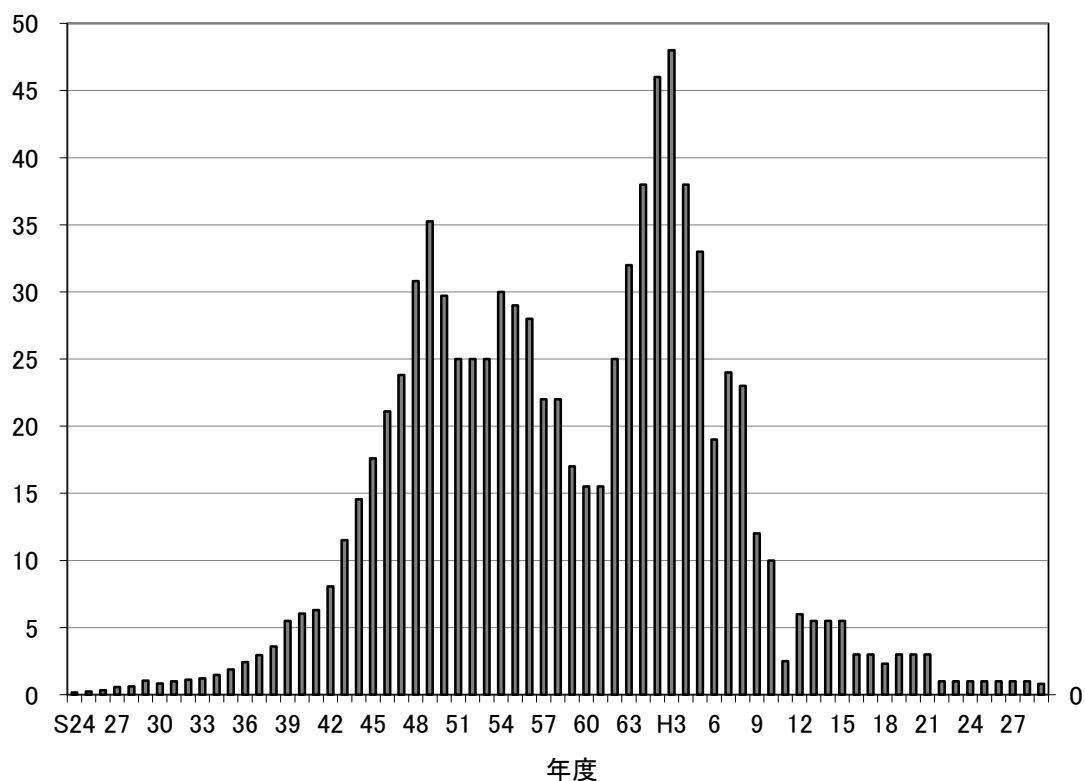
競輪事業の収益から支出される一般会計への繰出金の累計額は、昭和24年度の開設から約882億円にのぼるものの、平成3年度の48億円をピークに、平成29年度は8千万円まで減少している。

<一般会計への繰出金の推移>

(単位：千円)

年度	繰出金	年度	繰出金	年度	繰出金	年度	繰出金
S24	16,458	42	805,000	60	1,550,000	15	550,000
25	22,851	43	1,150,000	61	1,550,000	16	300,000
26	33,500	44	1,455,000	62	2,500,000	17	300,000
27	57,300	45	1,760,000	63	3,200,000	18	230,000
28	61,000	46	2,110,000	H1	3,800,000	19	300,000
29	105,000	47	2,380,000	2	4,600,000	20	300,000
30	82,000	48	3,080,000	3	4,800,000	21	300,000
31	100,200	49	3,525,000	4	3,800,000	22	100,000
32	112,000	50	2,970,000	5	3,300,000	23	100,000
33	120,000	51	2,500,000	6	1,900,000	24	100,000
34	148,500	52	2,500,000	7	2,400,000	25	100,000
35	187,000	53	2,500,000	8	2,300,000	26	100,000
36	242,000	54	3,000,000	9	1,200,000	27	100,000
37	295,000	55	2,900,000	10	1,000,000	28	100,000
38	358,000	56	2,800,000	11	250,000	29	80,000
39	548,000	57	2,200,000	12	600,000		
40	603,000	58	2,200,000	13	550,000		
41	631,000	59	1,700,000	14	550,000	累計	88,167,809

繰出金(億円)



## 2-2 今後の収支見込み

これまでのトレンドを踏まえるとともに、収入・支出について次のとおり想定して、平成31年度から平成35年度の収支を試算した。なお、試算にあたっては、民間包括委託など現時点で未着手の経営改善策については考慮していない。

### ○歳入（収入）

#### 【車券売上】

- ・記念競輪については、全国的に下降傾向にあることから、毎年売上が減少していくと見込む。
- ・通常開催（FⅠ、FⅡ）については、全国で開催状況や天候等によりその売り上げが大きく変動し、増加・減少のいずれもが起こり得ることから、一定額で推移するものと見込む。
- ・場外車券売場の数が多く、高い車券売上額を期待できる「FⅠジャパンカップ」について、2年に一度（奇数年）の開催を見込む。

#### 【還付金】

- ・事業収支で支出が収入を上回った場合、一定の額を上限としてJKA交付金の一部を翌年度に還付金として見込む。

### ○歳出（支出）

#### 【施設改修】

- ・老朽化した施設を、安心・安全に維持管理していくため、平成25年度から平成29年度までの5年間に支出した工事請負費及び修繕費の平均額を毎年計上する。
- ・平成27年度まで3年に一度の間隔で行ってきたバンクのシーリング工事を、4年に一度の間隔として平成31年度と平成35年度に所要の費用を見込む。

### ○収支の試算（平成31年度から平成35年度まで）

- ・平成31年度は、一般会計に2千万円を繰り出したうえで、歳入（収入）から歳出（支出）を差し引いた一次収支が約1千万円の黒字となる。
- ・平成32年度は、一般会計に繰り出せず、一次収支が約1億2千万円の赤字となる。
- ・平成33年度は、一般会計に繰り出せず、一次収支は僅かに黒字となる。
- ・平成34年度以降は、一般会計に繰り出せず、一次収支が約1億3千万円、約8千万円と赤字が続く。

## 1. 歳入（収入）

(千円)

項目	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 見込額	平成31年度 試算	平成32年度 試算	平成33年度 試算	平成34年度 試算	平成35年度 試算
事業収入	15,281,066	11,321,487	10,961,109	11,328,731	10,200,065	11,032,664	9,875,663	10,672,205
車券売上金	14,993,262	10,845,409	10,726,263	11,109,005	9,977,158	10,751,966	9,633,185	10,420,582
記念	5,664,974	5,306,640	5,157,759	4,969,005	4,787,158	4,611,966	4,443,185	4,280,582
その他	5,581,661	5,538,770	5,568,504	6,140,000	5,190,000	6,140,000	5,190,000	6,140,000
支援（国際トラック）	3,746,627							
財産運用収入	84,813	58,067	49,635	26,578	26,578	26,578	26,578	26,578
入場料	26,586	21,369	24,857	21,800	21,800	21,800	21,800	21,800
競輪場収入	51,574	32,091	20,000					
売店等貸付収入	6,652	4,608	4,778	4,778	4,778	4,778	4,778	4,778
諸収入	202,992	418,010	185,211	193,148	196,330	254,121	215,900	225,045
事故収入	42	31	116					
未払金収入	25,799	30,460	25,799	23,329	20,952	22,579	20,230	21,883
雑入（還付金を含む）	177,151	387,520	159,297	169,819	175,378	231,541	195,670	203,162
財産収入	7,336	7,294	7,835	5,675	5,675	5,675	5,675	5,675
基金積立金利子	2,159	1,331	2,030	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
選手宿舍貸付料	5,177	5,963	5,805	4,675	4,675	4,675	4,675	4,675
財産売払収入								
繰入金			30,118	18,099	22,734	23,505	20,453	7,133
繰越金	370,822	320,054	158,928	99,016	12,437		198	
歳入合計（A）	15,659,224	11,648,834	11,157,989	11,451,520	10,240,911	11,061,844	9,901,990	10,685,012

## 2. 歳出（支出）

(千円)

項目	平成28年度 決算額	平成29年度 決算額	平成30年度 見込額	平成31年度 試算	平成32年度 試算	平成33年度 試算	平成34年度 試算	平成35年度 試算
総務費	376,052	580,807	309,685	326,473	277,858	277,982	277,982	307,330
一般管理費	167,588	380,694	157,906	158,420	158,436	158,436	158,436	158,436
臨時場外車券売場開設費用	18,829	18,070	18,359	18,494	18,494	18,494	18,494	18,494
一般経費	148,759	362,624	139,547	139,926	139,942	139,942	139,942	139,942
施設管理費	108,464	120,113	111,779	148,053	119,422	119,546	119,546	148,894
施設新設改修経費	12,019	27,723	18,062	53,521	24,173	24,173	24,173	53,521
その他施設管理経費	26,812	25,725	27,153	26,624	26,786	26,910	26,910	26,910
選手宿舍管理経費	69,633	66,666	66,564	67,908	68,464	68,464	68,464	68,464
一般会計繰出金	100,000	80,000	40,000	20,000				
事業費	14,963,118	10,909,100	10,749,289	11,112,611	10,086,234	10,783,664	9,760,138	10,457,768
従業員経費	71,697	105,365	119,729	117,036	116,074	113,423	103,931	87,961
共済費	684	4,748	8,415	10,000	8,500	10,000	8,500	10,000
災害補償費								
賃金	71,013	100,617	111,314	107,036	107,574	103,423	95,431	77,961
関係団体経費	789,211	517,286	494,054	511,662	471,217	502,102	460,055	491,349
全輪協分担金	259,337	99,953	103,222	115,453	107,098	112,882	104,621	110,496
県主連協	1,293	1,294	1,287	1,294	1,294	1,294	1,294	1,294
小田原競輪運営協	46,304	43,273	14,597	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800
J K A 交付金	281,307	192,421	194,613	194,549	168,493	186,409	160,651	178,853
J K A 委託金	200,971	180,345	180,335	187,566	181,532	188,718	180,690	187,906
払戻金	11,218,761	8,122,628	8,020,027	8,306,203	7,459,921	8,039,245	7,202,733	7,791,469
払戻金	11,210,287	8,069,565	8,020,027	8,306,203	7,459,921	8,039,245	7,202,733	7,791,469
返還金	8,474	53,063						
選手経費	525,713	477,066	477,066	487,100	487,100	487,100	487,100	487,100
場間場外経費	1,690,350	1,174,477	1,171,821	1,209,685	1,074,464	1,166,384	1,032,739	1,126,187
一般経費	667,385	512,276	466,592	480,924	477,458	475,410	473,580	473,702
需用費	28,671	23,829	25,223	25,405	25,588	25,588	25,588	25,588
役務費	3,219	3,215	3,418	3,627	3,482	3,482	3,659	3,482
委託料	540,734	409,979	362,233	367,694	367,894	367,894	367,894	367,894
使用料	93,854	73,730	74,918	82,672	79,656	76,811	73,723	72,882
備品購入費	865	1,468	743	1,526	839	1,636	2,717	3,857
保証補填・賠償金	43	56	57					
諸支支出金（地方公共団体金融機構納付金）								
予備費								
歳出合計（B）	15,339,171	11,489,906	11,058,973	11,439,083	10,364,092	11,061,646	10,038,120	10,765,098
一次収支（C） A-B	320,054	158,928	99,016	12,437	-123,181	198	-136,130	-80,085
繰越金（D）	370,822	320,054	158,928	99,016	12,437		198	
一般会計繰出金（E）	100,000	80,000	40,000	20,000				
還付金	52,033		58,641	60,491	73,550	140,713	116,342	133,834
実質単年度収支（F） C-D+E	49,231	-81,125	-19,912	-66,579	-135,618	198	-136,328	-80,085



## 2-3 施設の状況

### ○施設及び都市計画上の制限等の概要

小田原競輪場の施設の概要については、次のとおりである。

<施設の概要>

竣工年月日	昭和24年8月
敷地面積（周辺の駐車場を含む）	47,970㎡
建築面積	7,500㎡
延床面積	9,715㎡
高さ	軒高さ15m、最高高さ16.5m
構造	RC造・S造
階数	地上3階、地下1階

また、小田原競輪場の立地している地区の主な都市計画上の制限等の概要については、次のとおりである。

<主な都市計画上の制限等の概要>

第一種中高層住居専用地域	建ぺい率60%、容積率150%
第一種高度地区	高さの最高限度12m、 北側斜線制限（5m+1：1.25）
第一種風致地区	建ぺい率20%以下、高さ8m以下など
都市計画公園区域	公園施設外の建築は都市計画法第53条許可

現行の法律の規定上、第一種中高層住居専用地域内に建築することができる建築物に競輪場は含まれていないことから、建替えや大規模修繕・模様替は認められていないが、耐震補強や一定の改修（建築行為、大規模修繕・模様替に該当しない工事。減築のみの工事。増築行為を伴わない耐震補強工事。また、外壁の塗装、過半とならない屋根の葺き替え。）は可能である。

※大規模修繕・模様替とは、主要構造部（壁、柱、床、はり、屋根、階段）一種以上の過半（1/2）にわたる大規模な修繕・模様替をいう。

### ○耐震診断調査及び市有建築物劣化等調査の結果

平成8年度に実施した耐震診断調査の結果を受けて、平成10～11年度に本部棟耐震補強工事及び中央スタンドの改修を実施しているが、その他の施設は未対応であり、当時、「倒壊の危険性は低い」とされた施設についても、診断から20年以上経過している状況である。

また、平成26年度に実施した市有建築物劣化等調査の報告書の小田原競輪場に関する総合所見では、「小田原競輪場は昭和24年に竣工し築65年を経過している。今までに何度も改修が行われている。鉄骨造の建物が多く、鉄骨の梁・柱の塗装の劣化が著しく、錆が生じている。現在の施設は、昭和40年代前半に建設されたものが多く、屋根や外壁、室内の仕上げ、電気設備、機械設備も全体的に劣化している。」とされている。

## 3 改善策

### 3-1 これまで取り組んできた改善策

平成20年2月の小田原市競輪事業検討委員会の報告書の中で、指摘のあった事項については、次のとおり取り組んできた。

#### ○経営の合理化

様々な業務において、内容の見直しや統合化など行い委託料等を削減し、入場者数に応じた投票窓口開設数の調整や、自衛警備隊員の配置人数の見直し等により人件費の削減にも取り組むなど、経費節減を図っている。

- ・投票所の委託化、縮小体制での開催
- ・ドリンクコーナーの縮小
- ・清掃内容の見直し
- ・警備員配置場所の削減
- ・自衛警備隊員（臨時職員）の採用人数の削減
- ・早朝当番出勤者の人数の削減及びフレックスタイム制導入による人件費削減
- ・借上げ駐車場の閉鎖・返還 等

#### ○競輪の活性化（集客方策の充実）

- ・平成21年度に南関東地区7場で相互発売をする「南関カップ」の第1回目を小田原競輪場で開催し、平成25年度からは他地区5場を加えた12場での「F I ジャパンカップ」として、更なる競輪ファン獲得・売上拡大を図るため、小田原競輪場で第1回目を開催しており、現在、2年に1度開催し、通常開催に比べ高い売上げを記録している。
- ・平成25年度に場内観覧用モニターを液晶化し、平成28年度にデジタル化した。
- ・平成28年度に記念競輪と同じGⅢグレードの国際自転車トラック競技支援競輪を誘致し、37億円余を売り上げた。

#### ○地域との共生

- ・平成21年6月に初めて、非開催日に場内でフリーマーケットを実施し、同年11月には「小田原サイクルフェスティバル」としてフリーマーケットに加え最新自転車の展示や模擬レースなどの子供や家族が楽しめる地域開放型のイベントとして実施し、現在まで毎年開催している。
- ・陸上自衛隊の防災隊区行進訓練に協力している地元自治会に、会場として競輪場を提供している。

#### ○市民生活への貢献

- ・平成22年度から平成28年度まで毎年1億円、平成29年度は8千万円の一般会計繰出金を拠出し、義務教育施設整備事業等に活用されている。

## 3-2 未着手の経営改善策

本検討会議では、これまで着手してこなかった経営改善策について、次のとおり検討した。

### 【民間包括委託】

#### ○概要

- ・競輪開催や施設管理に必要となる様々な委託業務を、公営競技のノウハウのある事業者に一括して委託することで効率的な運営を行う手法。(今年度、全国43場中19場で実施。)

#### ○検討内容

- ・民間包括委託は、民間事業者の裁量で従事員の人員配置や投票機器等の効率的運用などを行うことで、小回りの効く運営と総合的な経費の削減が可能となり、大幅な収支改善が見込まれる。
- ・また、県内では川崎競輪をはじめ実施した全国19場で効果を上げている。

### 【ナイター競輪】

#### ○概要

- ・アフター5からでも楽しめる時間帯(概ね15時30分頃から20時30分頃)で開催する。
- ・ナイター設備がある競輪場で開催する。(今年度、自場開催は19場、他場借上げ開催は無し。)

#### ○検討内容

- ・小田原競輪場の周囲に住宅や学校が近接しているという立地環境や、ナイター設備が無いという状況から、自場開催は難しい。
- ・他場借上げ開催については、実施している競輪場は無く、現時点での実施は難しい。

### 【ミッドナイト競輪】

#### ○概要

- ・深夜の時間帯(概ね21時頃から24時頃)に観客を入れずに開催する。(今年度、自場開催は19場、他場借上げ開催は11場。)
- ・車券は基本的に電話投票・インターネット投票による発売となり、競走の様子はSPEEDチャンネル・インターネット中継などで放送を行う。

#### ○検討内容

- ・小田原競輪場の周囲に住宅や学校が近接しているという立地環境や、ナイター設備が無いという状況から、自場開催は難しい。
- ・他場借上げを実施する場合には、他場との調整や関係条例の改正などが必要となり、また、借り上げる競輪場の使用料が別途発生するほか、小田原競輪場の臨時従業員や委託業者等の雇用が無くなるといった課題がある。一方で、無観客の開催のため清掃・警備などの業務委託費用が削減でき、大幅な収支改善が見込まれる。

## 【モーニング競輪】

### ○概要

- ・日中開催を全体的に2時間程早めたスケジュール（概ね9時頃から14時頃）で、朝から競輪を楽しめるように開催する。（7レース制で午前中に終わる開催もある。）

### ○検討内容

- ・小田原競輪場周辺に、中学・高校・大学が立地し、生徒・学生の通学時間帯と開催時間帯が重なることから配慮が必要である。
- ・夏休み期間中等に開催した場合でも、通常開催と同様に、より売上増を図るために、他場の車券を併用して発売することが想定されることから、モーニング競輪終了後に場外発売が引き続き行われ開催時間が長くなり、清掃・警備・発売機器保守等の委託業務の経費が別途必要となる。
- ・また、交通規制によりファンバスの運行が開門前に出来ないことや、早い時間帯での医師の確保、長時間の臨時従業員の手配が難しいことなど課題も多く、8月は記念競輪を開催していることもあり、夏休み期間中等のみの単発開催の実施の可能性は低い。

## 【ガールズケイリン】

### ○概要

- ・女性の競輪選手による競輪。

### ○検討内容

- ・インターネット投票での売上げが期待できるものの、小田原競輪場には女性選手用の控室が無く、実施する場合には、その環境を整備する費用が別途発生するといった課題があることから、費用対効果を見極めながら検討する必要がある。
- ・一方、その環境が整った他場で、借上げによるミッドナイト競輪を実施し、その中でガールズケイリンを開催すれば効果的である。

以上のことから、民間包括委託については、他場での実績もあり大幅な収支改善が見込まれる。一方、小田原競輪場でのナイター競輪とミッドナイト競輪については、課題が多いことから開催は難しい。他場借上げによるナイター競輪についても、開催している競輪場が無いことから現時点での実施は難しいが、他場借上げによるミッドナイト競輪については、必要な手続きや課題はあるものの、他場での開催実績から大幅な収支改善が見込まれる。また、モーニング競輪は立地環境・開催時期に加え、経費面を含む諸課題があり実施の可能性は低い。ガールズケイリンについては、とくに他場借上げによるミッドナイト競輪の中で実施すれば効果的である。

## 4 小田原競輪の今後の方向性

小田原競輪は、これまで経営の合理化や競輪の活性化等に取り組むなどして、一般会計への繰出金を継続的に支出してきたが、ここ数年は実質的な単年度収支が赤字となる年度があり、今後の収支を試算したところ、このまま何も対策を講じない場合には、平成32年度以降、一般会計への繰出金が捻出できなくなることが予測される。

一方、これまで着手してこなかった民間包括委託やナイター競輪、ミッドナイト競輪等の経営改善策について、実施の可能性を模索した結果、民間包括委託については、実施した19場で効果を上げていることから、大幅な収支改善が期待できることが分かった。ある競輪場では、赤字経営が続き再建策を模索する中で、事業者から「民間包括委託を実施すれば、年間収支が赤字の場合は事業者が全額負担し、黒字の場合は利益を市と事業者で折半する。」という提案を受けて民間包括委託を実施して効果を上げ、現在も事業を継続している、という事例もある。

しかし、この民間包括委託を小田原競輪で実施するには、業務の見直しや調整などが必要となり、平成31年度から直ちに実施することは難しい。また、他場借上げによるミッドナイト競輪について、他場の実績を踏まえると大幅な収支改善が期待できることや、ガールズケイリンを他場借上げによるミッドナイト競輪の中で実施すれば効果的であることも分かったが、実施には、他場との調整のほか関係条例の改正などが必要となる。

次に、施設については、もともと大規模な改修ができない地区に立地していることから全体的に老朽化が進み、耐震診断も平成8年度以降未実施であることなど、課題を抱えている。今後の方向性を判断するには、来場者の安全を確保するために最低限必要となる施設改修費用を把握することが必要である。

以上を踏まえ、本検討会議においては、「実施することにより効果が見込まれる民間包括委託や他場借上げによるミッドナイト競輪、ガールズケイリンについて検討を進めるとともに、施設に関して耐震診断等の調査を早急を実施して現状把握を行い、経営改善策を実施した場合の効果額と施設改修に必要となる費用を試算した上で、小田原競輪の今後の方向性を判断すべきである。」との結論に至った。